

SDGs未来都市等進捗評価シート

静岡県静岡市

2020年8月

SDGs未来都市計画名

静岡市 SDGs未来都市計画

SDGs未来都市等進捗評価シート

2018年度

1. 全体計画

計画タイトル	静岡市 SDGs未来都市計画
--------	----------------

2030年のあるべき姿	静岡市基本構想が定める『世界に輝く静岡』の実現に向け、本市が進めている5大構想（「健康長寿のまち」の推進、「まちは劇場」の推進、教育文化の拠点づくり、歴史文化の拠点づくり、海洋文化の拠点づくり）が成就した姿
-------------	---

2030年の あるべき姿の 実現に向けた 優先的なゴール	経済	社会	環境
	ゴール8 ターゲット8.6,8.9 ゴール9 ターゲット9.2 ゴール11 ターゲット11.7 ゴール12 ターゲット12.3 ゴール16 ターゲット16.7	ゴール1 ターゲット1.2 ゴール3 ターゲット3.4 ゴール4 ターゲット4.1 ゴール8 ターゲット8.5 ゴール9 ターゲット9.1,9.5	ゴール17 ターゲット17.17

優先的なゴール、 ターゲットに関する KPI	#	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年		進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
		1	静岡シチズンカレッジ「こ・こ・に」を受講した人たちのうちシチズンシップが身についた人の割合	2017年3月	98.9 %	2030年	100 %
	2	演劇・ダンスを中心とした文化芸術イベント「ストレンジシード」来場者数	2017年3月	7,190 人	2030年	43,720 人	2021年に延期された東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの1事業として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮した事業展開の検討が必要である。
	3	関連施設・イベント入込客数（駿府城公園・静岡まつり等）	2014年3月	2,116 千人	2030年	2,960 千人	平成28年8月から開始した「駿府城天守台跡発掘調査見える化」では、市内だけでなく県外に向けた歴史文化の発信ができています。
	4	歩行者通行量	2015年3月	6,445 人	2030年	8,253 人	長期的に見れば、まちなかの歩行者通行量は減少傾向にある。
	5	ロジスティクス関連企業立地件数	2014年3月	3 件	2030年	5 件	物流の展示会出展などの情報発信に力を入れるとともに、官民連携による清水港利活用促進のための勉強会を開催することで、結果的にロジスティクス関連企業の立地に繋がっている。
	6	一人一日当たりのごみ総排出量	2014年3月	1,008 g/人日	2030年	810 g/人日	毎年開催するごみリサイクル展において、関係団体との協力により高い成果を出したほか、各種方面との連携を進め、目標達成に着実に近づいている。
	7	主要な通りの店舗・事業所数	2015年3月	540 件	2030年	580 件	各種支援の結果、豊かで暮らしやすい商業環境の促進及び商業の振興が図られている。
	8	歴史や文化を身近に感じることができる街だと思ふ市民の割合	2015年3月	63.8 %	2030年	100 %	2017年度は数値が大きく低下したが、2018年度は上昇へと転じた。
	9	静岡シチズンカレッジ「こ・こ・に」を受講した人たちのうちシチズンシップが身についた人の割合（再掲）	2017年3月	98.9 %	2030年	100 %	受講生に地域や社会のために行動したいという意識付けができています。
	10	セーフティネットが整備されているまちと思ふ市民の割合	2014年3月	32 %	2030年	48 %	一人ひとりに必要な支援を提供できる環境づくりに関する取組が順調に実施されており、成果指標においても目標を上回る達成率が得られている。
	11	65歳以上高齢者の地域貢献活動に対する満足度	2017年3月	85 %	2030年	97 %	高齢者が地域で役割を担うことによる生きがいづくりが進みつつある。
	12	J R 草薙駅周辺整備事業の進捗率	2017年3月	75.4 %	2030年	100 %	現在の交通機能を確保しながらの工事であるため困難性を伴うが、定期的な工事調整会議の開催による施行者間の連携をより強化し、確実かつ安全な施行と進捗管理を行う。
	13	清水港の航路数	2013年3月	23 航路	2030年	27 航路	国際経済の低迷により海上輸送貨物の取扱量は減少傾向にあるうえ、大手邦船の統廃合による航路再編の動きが進んでいるため、原状値の維持を目標とする。
	14	コンテナ取扱量	2013年3月	498,726 TEU	2030年	676,400 TEU	国際経済の低迷により海上輸送貨物の取扱量は減少傾向にある。
	15	メール配信された高齢者と家族への支援の実施	2017年3月	100 %	2030年	100 %	2018年度は申し出があった件数全てに対応することができた。H30.4月から新たに増設された地域包括支援センター（5か所）が適切に運営できるよう指導、助言する。
	16	学校訪問コンサート実施校数	2017年3月	14 校	2030年	14 校	2021年に延期された東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの1事業として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮した事業展開の検討が必要である。

	#	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年		進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
優先的なゴール、ターゲットに関するKPI	17	一人一日当たりのごみ総排出量（再掲）	2014年3月	1,008 g/人日	2030年	810 g/人日	毎年開催するごみリサイクル展において、関係団体との協力により高い成果を出したほか、各種方面との連携を進め、目標達成に着実に近づいている。
	18	排水基準遵守率	2017年3月	93 %	2030年	100 %	立入検査時に、自主測定の実施と排水処理施設の適正な維持管理について指導を行い、立入検査時に行う排水水質検査での基準超過をなくしていく。
	19	ロジスティクス関連企業立地件数（再掲）	2014年3月	3 件	2030年	5 件	物流の展示会出展などの情報発信に力を入れるとともに、官民連携による清水港利活用促進のための勉強会を開催することで、結果的にロジスティクス関連企業の立地に繋がっている。

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題 静岡市のSDGs推進に関し必要な事項を定めた「静岡市SDGs実施指針」を策定した。また、第3次総合計画のうち、特に力を入れて進める「5大構想」への組込作業を進めている。 その他、各種の個別計画についても順次SDGsを反映させている。</p> <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ 市のSDGsの推進に当たり、専門的見地からの意見又は提言を求めため、市長を本部長とし、各局の局長級職員で構成する「静岡市創生・SDGs推進本部会議」を設置している。</p>	<p>■SDGsマンスの開催と市民認知度の向上 2020年1月3日～31日を「SDGsマンス」と銘打って、SDGsをテーマにした企業と学生の交流会や市内の吹奏楽部や企業が連携して実施したSDGs吹奏楽団コンサートなど、様々なイベントを開催し、集中的にSDGsの普及啓発を行った。また、2019年に引き続き、社会を担う若者に対して普及啓発を図るため、官民連携してSDGs推進TGCLずおかを開催した。 マンスの最終日には、SDGsと関わり深い国際機関やSDGsに取り組む市内事業所・団体を招いた静岡市SDGsシンポジウムを開催し、フィナーレを締めくくった。 集中的なSDGsの普及啓発の結果、平成31年1月時点で28.8%であった市民認知度が、46.5%（令和2年2月）まで向上させることができた。</p> <p>■国際社会への情報発信 国連NY本部SDGs推進会議や、ハイレベルポリティカルフォーラム、SDGs/ハブ都市会議(南アフリカ共和国)に出席し、本市のSDGsの取組を発表した。</p> <p>■SDGs宣言事業の開始 令和元年10月から、市内事業所・団体がSDGsに取り組む内容を宣言する「SDGs宣言事業」を開始した。令和2年7月末時点で156事業所・団体が宣言を行っており、SDGsに取り組む事業所・団体が増加している。 今後は、宣言事業所・団体が相互に連携する機会の創出や、要望・課題に対する支援を通じて、事業の横展開に繋げていく方針。</p>	<p>■SDGsの認知向上に取り組んだことは高く評価されるが、この認知度の上昇について測る指標の検討も期待する。</p> <p>■関連施設、イベントについて意欲的に取り組んだことは高く評価されるが、8.9の指標が目標に達成していないことの説明が今後必要である（「演劇・ダンスを中心とした文化芸術イベント「ストレンジシード」来場者数」が32%、「関連施設・イベント入込客数（駿府城公園・静岡まつり等）」が65%）。</p> <p>■5つの構想とSDGsの取組、指標がバランスよく検討されていないように見える。健康についての取組の進捗は理解できるが、海洋、教育文化の拠点については取組と進捗を測る指標が適切に設定されていない懸念がある。教育文化の12だけでは不足のため、検討が望まれる。</p> <p>■計画時点ではバランスが良かったが、普及啓発に偏り5つの柱に対してそれぞれの具体的な取組・事業ができていない。静岡市の豊富な資源を、活かされていないと思考する。</p> <p>■宣言事業と5大構想、指標との関連を明示的に説明すること、具体的な事業につなげることが必要である。</p> <p>■普及啓発や情報発信は取組の入り口として重要であるが、それが三側面の各事業やその統合にどのようにつながるかのロジックモデルが弱く感じる。特にSDG s 宣言事業の事業所・団体が連携した取組やその促進を重視し、検討することを期待する。</p> <p>■「普及啓発」や「情報発信」、イベント開催は副次的なものである。「市政への組込み」が重要となるため、注力して進めていただきたい。メインではなく、ツールとしてのイベントが重要である。</p> <p>■静岡県近隣の他市町とイベントだけでなく「政策面」で連携し、静岡市にリードしていただきたい。また、「SDGs/ハブ都市会議」は、他都市の模範となると思料する。</p> <p>■KPI 9 シチズンシップは重要な理念であると思われるが、学習した人の割合というよりも人数、市民での割合を評価するべきと思料する。</p> <p>■海洋拠点は重要な取組であるが、海洋ごみの観測、海岸清掃の取り組み、ウォーターフロントでの活動強度などの指標の検討も期待する。</p>
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■域内の連携 SDGsを推進するTGCLずおか2020開催に向け、商工会議所、青年会議所、繊維協会、特産工業協会、観光協会、市観光大使等からなる「SDGs推進TGCLずおか2020地域協議会」を設置し、連携を図った。また、市内大学及び静岡青年会議所と連携し、企業へSDGs推進の取組を広げるための課題と対策を調査研究を行った。</p> <p>■自治体間の連携（国内） 静岡県と連携してSDGs推進TGCLずおかを開催し、静岡県の持つ県内市町とのネットワークを活用し、市内だけでなく、他市町に対してSDGsを発信した。</p> <p>■国際的な連携 本市のSDGs推進の取組や「ハブ都市」としての活動内容について、国連で報告を行った。また、協定を締結している国連の友APと連携し、SDGsの普及促進や世界に向けての情報発信に取り組んだ。</p>	<p>■『世界に輝く静岡』の実現 静岡市5大構想×SDGs 本市が目指す『世界に輝く静岡』の実現は、市のプレゼンスを高め、交流人口の増加につなげるという意味において、本市が抱える課題である人口減少への対策につながるものである。『世界に輝く静岡』に向け、特に優先すべき施策群を「5大構想（健康長寿のまちの推進、まちは劇場の推進、教育文化の拠点づくり、歴史文化の拠点づくり、海洋文化の拠点づくり）」に集約している。5大構想は、いずれも地域経済の活性化に資するものであるが、この5大構想にSDGsを組み込むことで、『世界に輝く静岡』の実現を加速化を図る。 5大構想は、経済・社会・環境の三側面全てに関係するが、未来都市計画に記載のとおり、これにSDGsを組み込むことで、それぞれの構想について統合的な視点により取り組むことが可能となる。また、SDGsの推進にあたっては、市内の企業・団体、大学などの多くのステークホルダーとの連携を図ると同時に、企業・団体、大学等の自主的な取組を促進する。</p>	

1. 全体計画

	取組名	ターゲット	指標名	当初値		2019年		2020年		達成度 (%)	進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
				2013年度	32 %	2018年度	39.5 %	2020年	38 %		
自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2020年のKPI	健康寿命75歳への延伸	3.4	セーフティネットが整備されているまちと思う市民の割合	2013年度	32 %	2018年度	39.5 %	2020年	38 %	125%	一人ひとりに必要な支援を提供できる環境づくりに関する取組が順調に実施されており、成果指標においても目標を上回る達成率が得られている。
		8.5	65歳以上高齢者の地域貢献活動に対する満足度	2016年度	85 %	2018年度	90.6 %	2020年	87 %	280%	「元気いきいき！シニアサポーター事業」の参加者アンケートにおける満足度に係る目標が達成でき、高齢者が地域で役割を担うことによる生きがいづくりを図ることができた。
	自宅ですずと暮らせるまちづくり	17.17	メール配信された高齢者と家族への支援の実施	2016年度	100 %	2018年度	100 %	2020年	100 %	100%	申し出があった件数全てに対応することができた。H30.4月から新たに増設された地域包括支援センター（5か所）が適切に運営できるよう指導、助言する。
	わくわくドキドキの仕掛けづくりと人材育成	8.9	演劇・ダンスを中心とした文化芸術イベント「ストレンジシード」来場者数	2016年度	7,190 人	2018年度	9,925 人	2020年	15,620 人	32%	県外からの来場者数が増加した一方で、市内の来場者が減少したため、今後は市内へのPRを強化し、市民の認知度を高めていく。 2021年に延期された東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの1事業として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮した事業展開の検討が必要である。
		17.17	学校訪問コンサート実施校数	2016年度	14 校	2018年度	14 校	2020年	14 校	100%	一定の成果は得られているが、学校訪問コンサートの申込校が固定化してきているため、校長会などで引き続き周知するとともに、こども園などへの活動を新たに実施していく。
	公共空間の積極的な活用による文化・クリエイティブ活動の「舞台」の創出	8.9	関連施設・イベント入込客数（駿府城公園・静岡まつり等）	2013年度	2,116 千人	2018年度	2,324 千人	2020年	2,435 千人	65%	平成28年8月から開始した「駿府城天守台跡発掘調査見える化」では、広報課との連携によるものも含め多くのメディアに周知したことで、きゃっしる入場者への簡易アンケートの結果によると45.4%が県外の入場者となるなど、市内だけでなく県外に向けた歴史文化の発信ができています。
		11.7	歩行者通行量	2014年度	6,445 人	2018年度	6,919 人	2020年	7,123 人	70%	昨年度比で約6%増加(6,520人⇒6,919人) まちなか歩行者通行量は下げ止まりつつあるが、長期的に見れば減少傾向にあるため、まちなかの魅力発信や魅力づくりを通じてより回遊性のある街づくりを進めていく。
	教育文化の香りが漂う都市空間の創造	9.1	JR草薙駅周辺整備事業の進捗率	2016年度	75.4 %	2018年度	95.6 %	2020年	100 %	82%	南口駅前広場については、現在の交通機能を確認しながらの工事であるため困難性を伴うが、主な利用者である北口周辺の学校をはじめ、地元自治会、関係部署等との調整を進め、当該施設的设计へ反映させる。
	高等教育をはじめとした学習機会の提供とシチズンシップに富んだ人材の養成	1.2 4.1 8.6 17.17	静岡シチズンカレッジ「こ・こ・に」を受講した人のうちシチズンシップが身についた人の割合	2016年度	98.9 %	2018年度	98.9 %	2020年	100 %	0%	受講生に地域や社会のために行動したいという意識が育まれている。
	歴史文化の伝承と新たな魅力の創出による風格ある街並みの形成	8.9	歩行者通行量（再掲）	2014年度	6,445 人	2018年度	6,919 人	2020年	7,123 人	70%	昨年度比で約6%増加(6,520人⇒6,919人) まちなか歩行者通行量は下げ止まりつつあるが、長期的に見れば減少傾向にあるため、まちなかの魅力発信や魅力づくりを通じてより回遊性のある街づくりを進めていく。
		16.7	主要な通りの店舗・事業所数	2014年度	540 件	2018年度	548 件	2020年	555 件	53%	個店に対しては、魅力向上の支援を行い、商店街に対しては、各種補助金により活性化を促し、まちに対しては、市が目指す良好な商業環境の形成の推進等により豊かで暮らしやすい商業環境の促進及び商業の振興が図られている。

	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年	2020年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2020年のKPI	駿府城公園周辺における 賑わいと潤いのある新たな 公共空間の創造	8.9	関連施設・イベント入込客数 (駿府城公園・静岡まつり 等) (再掲)	2013年度 2,116 千人	2018年度 2,324 千人	2020年 2,435 千人	 65%	平成28年8月から開始した「駿府城天守台跡発掘調査見える化」では、広報課との連携によるものも含め多くのメディアに周知したことで、きゃっする入場者への簡易アンケートの結果によると45.4%が県外の入場者となるなど、市内だけでなく県外に向けた歴史文化の発信ができています。
		16.7	歴史や文化を身近に感じる ことができる街だと思ふ市民の 割合	2014年度 63.8 %	2018年度 62.6 %	2020年 73.8 %	 -12%	2017年度は数値が大きく低下したが、2018年度は上昇へと転じた。
	「働くみなと」に「楽しむみなと」 を加えた求心力の強い 港町の創生	9.5	清水港の航路数	2012年度 23 航路	2018年度 27 航路	2020年 27 航路	 100%	大手船会社の統廃合による航路再編により、前年度(29航路)と比べ縮小したが、官民連携による国内外へのポートセールス活動などに積極的に取り組んだ結果、減少数を最小限に抑えることができています。
		9.5	コンテナ取扱量	2012年度 498,726 TEU	2018年度 567,460 TEU	2020年 646,600 TEU	 46%	国際経済の低迷により、海上輸送貨物量が減少傾向にある中で、清水港のコンテナ取扱量が、国内主要港に落ち込みがあるものの50万TEU前後を維持している。
	産学官民連携による「海 洋文化拠点」の形成	9.2 14.b	ロジスティクス関連企業立地 件数	2013年度 (2008-2013 期間計) 3 件	2018年度 (2016- 2019期間 計) 9 件	2020年 (2019-22 期間計) 4 件	 600%	物流の展示会出展などの情報発信に力を入れるとともに、官民連携による清水港利活用促進のための勉強会を開催することで、結果的にロジスティクス関連企業の立地に繋がっている。
		12.3	一人一日当たりのごみ総排 出量	2013年度 1,008 g/人日	2018年度 935 g/人日	2020年 975 g/人日	 221%	毎年開催するごみリサイクル展において、しずおか市消費者協会や民間の廃棄物処理業等の各団体との協力により高い成果を出したほか、廃棄物減量等推進員との連携、教育機関との連携による各種啓発活動等、各種方面との連携を進め、目標値を達成することができた。
		14.1	排水基準遵守率	2016年度 93 %	2018年度 96 %	2020年 100 %	 43%	立入検査における排水基準違反事業場が5件あったため、全件について改善指導を行った。 立入検査時に、自主測定の実施と排水処理施設の適正な維持管理について指導を行い、立入検査時に行う排水水質検査での基準超過をなくしていく。